様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 23 年 5 月 8 日現在

機関番号：１５４０１
研究種目：基盤研究　(C)
研究期間：２００８～２０１０
課題番号：２０５２０２２９
研究課題名（和文）コンピュータによる『カンタベリー物語』Hg, El 写本及び刊本の言語比較
研究課題名（英文）A Computer-assisted Linguistic Comparisons between the Two Manuscripts Hengwrt and Ellesmere) and the Two Editions (Blake and Benson) of the *Canterbury Tales*
研究代表者　中尾　佳行　(NAKAO YOSHIYUKI)
広島大学・大学院教育学研究科・教授
研究者番号：１０１３６１５３

研究成果の概要（和文）：
コンピュータを利用した『カンタベリー物語』、Hengwrt MSとEllesmere MS及び2刊本、Blake (1980)とBenson (1987)の、4テクストの交合コンコーダンスの作成の一環として、本研究においては、2写本の散文作品を除く全ての作品のコンコーダンスを作成した。また2刊本の全ての電子化を完成させた。第16回新チョーサー学会（Swansea, 2008/7/19）と第17回新チョーサー学会(Siena, 2010/7/19)で、研究成果の一部（形態論）を発表した。写本と刊本の間にある複雑な関係性が統計的手法を通して新事実として発掘された。今度の研究の可能性を大きく秘めていると言える。

研究成果の概要（英文）：
As part of a computer-assisted textual concordance to the two MSs: Hg and El and the two editions: Blake (1980) and Benson (1987) of the *Canterbury Tales*, we completed the concordance between the two MSs with regard to all the verse lines. And we also completed the machine readable texts of the two editions. In the 16th and 17th conferences of the New Chaucer Society (Swansea, 2008/7/19, Siena, 2010/7/19), we read a paper as regards some of the morphological similarities and dissimilarities between the four texts. We were able to statistically discover some new aspects of the relationships between the MS and the editions, which merits attention in future research area

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2008 年度	2,200,000	660,000	2,860,000
2009 年度	700,000	210,000	910,000
2010 年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総　計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：中世英語英文学
科研費の分科・細目：文学・英米・英語圏文学
キーワード：(1) 英文学 (2) Chaucer の本文批評 (3) カンタベリー物語 (4) Hengwrt 写本 (5) Ellesmere 写本 (6) コレーション・コンコーダンス (7)写本の異同 (8) 語彙研究

１．研究開始当初の背景
G.チョーサーのテクスト研究は、近年のコンピュータの発達により写本の電子化が推し進められることから、刊本から写本そのものの研究へと推移していきている。とは言え、セットテクストとしては依然として刊本が

使われているのが現状である。そこで問題になるのは、セットテクストである刊本が写本と比較した場合、どこが編集され、どこが写本そのままに採用しているかという問題である。従来刊本のテクスト注釈において写本との交合が指摘されてはいるが、それは体系的・統計的な叙述ではない。そこでチョーサーの代表的な作品である『カンタベリー物語』(*The Canterbury Tales*)を取り上げ、しかもチョーサーのオリジナルに最も近いとされる写本、Hengwrt 写本（以下 Hg）と Ellesmere（以下 El）写本に焦点を当て、それが現代のセットテクストである Blake (1980)と Benson (1987)とどのように対応するのか、４テクストのコレーション・コンコーダンスを作成することは、緊急課題であると考えた。

２．研究の目的

本研究の目的は、コンピュータによりチョーサーの『カンタベリー物語』の２つの代表的な写本と２つの代表的な刊本を取り上げ、４つのテクストのコンコーダンスを作成し、チョーサーの言語研究及び本文批評に貢献することである。当該作品８０余写本のうち、最も重要であると考えられる２つの写本、Hg と El を取り上げた。２つの刊本としては、Hg に依拠した刊本、N. Blake, ed. (1980) *The Canterbury Tales*, Edward Arnold と El に依拠した L. D. Benson, ed. (1987) *The Riverside Chaucer,* OUP を取り上げた。

Hg 写本は、『カンタベリー物語』において、最も古い写本であり、その分チョーサーのオリジナルに最も近いと考えられている。一方、El 写本は、写字生の編集を通して最も完成に近いもので、従来多くの刊本のベースにされてきた。４つのテクストの比較コンコーダンスは、その重要性が示唆されるものの未だ実行されてはいない。本研究では、写本と刊本の異同を即座に示すことが可能である。チョーサーのテクストのオリジナルの再建や、音韻、形態、統語、韻律等の観点からの研究に対して、第一級の資料を提供できると考える。

３．研究の方法

上記の研究目的を達成するために、下記の手順で研究を進める。

(1) 『カンタベリー物語』の Hg, El のコンコーダンスに現代の代表的な２つの刊本、Blake (1980) と Benson (1987) のコンコーダンスを加え、計４つのテクストの比較コンコーダンスを作成する。すでに General Prologue, The Knight's Tale, The Miller's Tale, The Reeve's Tale, The Cook's Tale, The Wife of Bath's Prologue and Tale, The Friar's Tale, The Summoner's Tale については完了しており、残りの部分の作業を行う。

(2) 連合王国、Oxford 大学の T. Hoad 教授に、また Sheffield 大学 E. Stubbs 博士に Hg, E 及び２つの刊本についての言語特徴に関する研究成果を報告し、指導・助言を受ける。また British Library (London) 及び Oxford 大学、Bodleian Library を訪問し、文献調査する。

(3) 研究成果がまとまると、海外の学会（例えば、The New Chaucer Society）で発表する。

(4) (1)と(2)の目的を達成するためには、現設備のみでは不十分である。高速かつ正確にデータ処理するためには、コンピュータ、Panassonic CF-Y 7AWKAJC UNIV モデルが必要である。データの取り込みには、スキャナ EPSON GT-X900 が必要である。また高速に出力するためには、レーザープリンタ、OKI C5900dn-S が必要である。また研究成果のプリゼンテーションには、プロジェクター、Epson Offirio EMP-1715 が必要である。

中尾と地村は(1)と(2)、そして松尾は、プログラム（データ解析のソフト開発、言語の統計処理）を担当する。また中尾、地村、松尾は(3)を担当する。研究代表者の中尾はデータ整理の最後の総括をする。膨大なデータ量になるので、中英語を専門とする中尾、地村、そしてデータ処理のアプリケーション開発とその統計的処理の専門家である松尾の協力体制を構える必要がある。

以上の役割分担をしながら、２つの写本及び２つの刊本の言語の異同に関する基礎データを作成する。

４．研究成果

コンピュータを利用し、『カンタベリー物語』について、チョーサーのオリジナルに最も近いものとして重要な２写本、Hg と El、それぞれを基に編集した２刊本、Blake (1980)と Benson (1987)を取り上げ、４つのテクストのコレーション・コンコーダンスを作成する目的の基に、２写本に関しては、散文作品を除く全ての作品のコレーション・コンコーダンスを作成した。また２つの刊本についてはその電子化を完成させた。2008年7月19日に英国Swansea

で開催された第16回新チョーサー学会で、また 2010年7月19日にイタリSienaで開催された第17回新チョーサー学会で、研究成果の一部を発表した。写本及び刊本の形態論の比較を行い、i/yの使い分け、メタセシス、単音節形容詞の強変化と弱変化の識別、2写本のvirguleの行位置の違い、midtailが付加される文字の種類及びその文字列の位置の違い、またmidtailとvirguleとの関係、そして過去分詞の接頭辞y (i)-の有無について、統計学的に明らかにした。virguleについて具体的に述べると、Hgの方がElよりも多く、しかも行内の位置に偏りがあることが検証できた。過去分詞接頭辞ついては、Elの方が接頭辞が多用されていること、また刊本では写本に無いにも拘わらず韻律パタンに合わせるため、かなりの編集を加えていることが明らかにされた。

同学会に参加された研究者、Peter Robison k教授（Birmingham University）や David Wallace 教授 (Pennsylvania University)から、評価と共に貴重な助言を得た。また口頭発表の一部をNakao , Jimura and Matsuo (2009ab), Jimura (forthcoming)の論文にまとめた。

散文作品であるMelibeeとParson's Taleについては、2写本の電子化の作業を終えた。コレーションするために必要となる写本の行の分節の仕方についても方針を決めた。

本研究を通して写本と刊本の間にある複雑な関係性が、統計的手法を通して、新たな事実として発掘された。今度の研究の可能性を大きく秘めていると言える。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計９件）

1. Nakao Yoshiyuki *"Textual Variations in Troilus and Criseyde and the Rise of Ambiguity" in* A. V. C. Schmidt, David Wallace, and Tomonori Matsushita, eds. *Medieval English Literature: Torches from the Ancient World* [To be published by Peter Lang.]（**査読有り**）
2. Nakao Yoshiyuki and Masatsugu Matsuo*"A Comprehension TextualComparison of Troilus and Criseyde: Coprus Christi College, Cambridge, MS 61 and B. A. Windeatt's Edition of Troilus and Criseyde (1990)" in* A. V. C. Schmidt, David Wallace, and Tomonori Matsushita, eds. *Medieval English Literature: Torches from the Ancient World* [To be published by Peter Lang.]（**査読有り**）
3. Jimura Akiyuki "On the Decline of the Prefix y- of Past Participles" *in* A. V. C. Schmidt, David Wallace, and Tomonori Matsushita, eds. *Medieval English Literature: Torches from the Ancient World* [To be published by Peter Lang.]（**審査有り**）
4. 中尾佳行「Chaucerのcomment clause――韻律と意味の融合――」『近代英語研究』第26号 近代英語協会, 2010, pp. 71-78. （査読有り）
5. Nakao Yoshiyuki "Chaucer's Ambiguity in Voice" in Osamu Imahayashi/Yoshiyuki Nakao/Mihciko Ogura (eds.) *Aspects of the History of English Language and Literature: Selected Papers Read at SHELL 2009, Hiroshima. (Studies in English Medieval Language and Literature-Volume 25)* Frankfurt am Main: Peter Lang, ix + 407 pp, 2010, pp. 143-57. (査読有り)
6. Jimura Akiyuki "Impersonal Constructions and Narrative Structure in Chaucer" in Osamu Imahayashi/Yoshiyuki Nakao/Mihciko Ogura (eds.) *Aspects of the History of English Language and Literature. (Studies in English Medieval Language and Literature-Volume 25)* Frankfurt am Main: Peter Lang, 2010, pp. 93-100. (**査読有り**)
7. Nakao Yoshiyuki, Akiyuki Jimura and Masatsugu Matsuo "A Project for a Manuscripts (Hengwrt and Ellesmere) and the Two Editions (Blake [1980]) and Benson [1987]) of *The Canterbury Tales*." *Hiroshima Studies in English Language and Literature*, Vol, 53, 2009a, pp. 1-22. (査読有り)
8. Nakao Yoshiyuki, Akiyuki Jimura and Masatsugu Matsuo "Positions of Ornamental Letters within a Word in the Hengwrt and Ellesmere Manuscripts of Geoffrey Chaucer's *The Canterbury Tales*." 『松尾雅嗣教授退職記念論文集 平和学を拓く』IPSHU 研究報告シリーズ、研究報告, No.42, 広島大学平和科学研究センター、2009b, pp. 384-99. （査読無し）
9. 地村彰之「Chaucerの写本と刊本における「接頭辞y-付き過去分詞」覚書」『IPSHU研究報告シリーズ』（松尾雅嗣教授退職記念論文集）No.42(2009), pp. 373-83. (査読無し)

〔学会発表〕（計２件）

1. Nakao Yoshiyuki, Akiyuki Jimura, and Masatsugu Matsuo "Some textual discoveries from a multi-layered comprehensive collation across the Two Manuscripts (Hengwrt and Ellesmere) and the Two Editions (Blake (1980) and Benson

(1987)) of *The Canterbury Tales,"* The 17th New Chaucer Society 2010 Congress, 19 July, 2010, Siena, Italy.

2. Nakao Yoshiyuki, Akiyuki Jimura, and Masatsugu Matsuo "A Project for a Comprehensive Collation of the Two Manuscripts (Hengwrt and Ellesmere) and the Two Editions (Blake (1980) and Benson (1987)) of *The Canterbury Tales*", The 16th New Chaucer Society 2008 Congress, 19 July, 2008, Swansea, UK.

〔図書〕（計４件）

1.中尾佳行「ChaucerのComment clause――認識・思考動詞の主観化とテクストの読み」秋元実治編. 『Comment Clauseの史的研究――その機能と発達――』英潮社フェニックス、2010, pp. 51-80.　(査読有り)

2.水田英美、山代宏道、中尾佳行、地村彰之、原野　昇共編.『中世ヨーロッパにおける伝統と刷新』渓水社, 2009, 198 pp.（「トパス卿の話に見る伝統と刷新――ロマンスの言言の解体と創造――」pp. 135-64を執筆。）（査読無し）

3.中尾佳行「Chaucer の言語とメトニミー―*Troilus and Criseyde* の場合―」渡部眞一郎・細谷行輝編『英語フィロロジーとコーパス研究――今井光規教授古稀記念論文集――』松柏社, 2009, pp. 413-26.　(査読有り)

4.地村彰之 "A Historical Approach to Variant Word Forms in English," 『英語フィロロジーとコーパス研究－今井光規教授古希記念論文集－』(渡部真一郎、細谷行輝編)（松柏社, 2009.6), pp. 185-94.　(査読有り)

〔その他〕

ホームページ等

６．研究組織

(1)研究代表者

中尾　佳行（NAKAO YOSHIYUKI）

広島大学・大学院教育学研究科・教授

研究者番号：１０１３６１５３

(2)研究分担者

地村　彰之（JIMURA AKIYUKI）

広島大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：００１３１４０９

松尾　雅嗣　（MATSUO MASATUGU）

広島大学・平和科学研究センター・名誉教授　（2010年10月16日に死亡のため、11月24日に分担者変更し、松尾氏の担当分は中尾が補完。）

研究者番号：４０１０６７８７

(3)連携研究者

（　　）

研究者番号：